

1 調査の経緯

南九州西回り道自動車道建設に伴い新城跡・北山遺跡・諏訪ノ前遺跡の発掘調査が実施され、これまでに4冊の報告書が刊行された。現在も北山遺跡の発掘調査が継続して実施されている。これらの遺跡からは、縄文時代や弥生時代、古墳時代や古代と重層的に遺構や遺物が出土しているが、中世の資料が圧倒的に多い。これらの遺跡では、莫祢（阿久根）氏との関係性が指摘され、これまで不明瞭であった莫祢（阿久根）氏研究が進むきっかけともなった。

2 新城跡

新城跡は、4つの地点に大別されている。東台地は、中之城跡に近く、新城本体があったと伝わっているが、大きく削平を受けており残存状態が極めて悪い。西台地は、東西に谷部があり、今回の調査で虎口状遺構が検出された地点である。虎口状遺構そのものからは遺物の出土が見られないが、虎口状遺構を覆うIX層の上層であるVIII層から、15世紀中頃から16世紀末にかけての陶磁器が出土している。また、炭素年代でAD1,436-1,490という測定値が示されていることから、構築は14世紀後半代とし16世紀まで機能していたと推定された。なお、調査対象地外であるが、北側には曲輪状の構造が残存している。

3 北山遺跡

オレンジロードを境に西側と東側に分かれる。東側は、並行する2条の薬研堀の溝をはじめ、多くの遺構が確認されている。土坑内から意図的に分割された茶臼の下臼が出土している。土坑内部の炭化物から年代測定が行われ、AD1,304-1,324年と結果が示されている。

西側は、13-14世紀の集落と15-16世紀の溝・墓と大別されているが、集落を構成する掘立柱建物跡と溝状遺構との関係が整然としており溝で区画された集落との見方も出来る。掘立柱建物跡の規模から非領主クラスの集落を想定している。

4 諏訪ノ前遺跡

トイレ遺構が検出された遺跡でもある。特に炉状遺構が複数基検出され、切り合いを有するなど土地利用のあり方が注目される。報告書では、炉は短期的に使用された可能性を述べている。この炉状遺構内からは炭化物が多く発見され、21基中11基について炭素年代測定分析をしている。これらの年代測定値で見ると14-16世紀にかけて西から東へ移り変わっている傾向があるとしている。

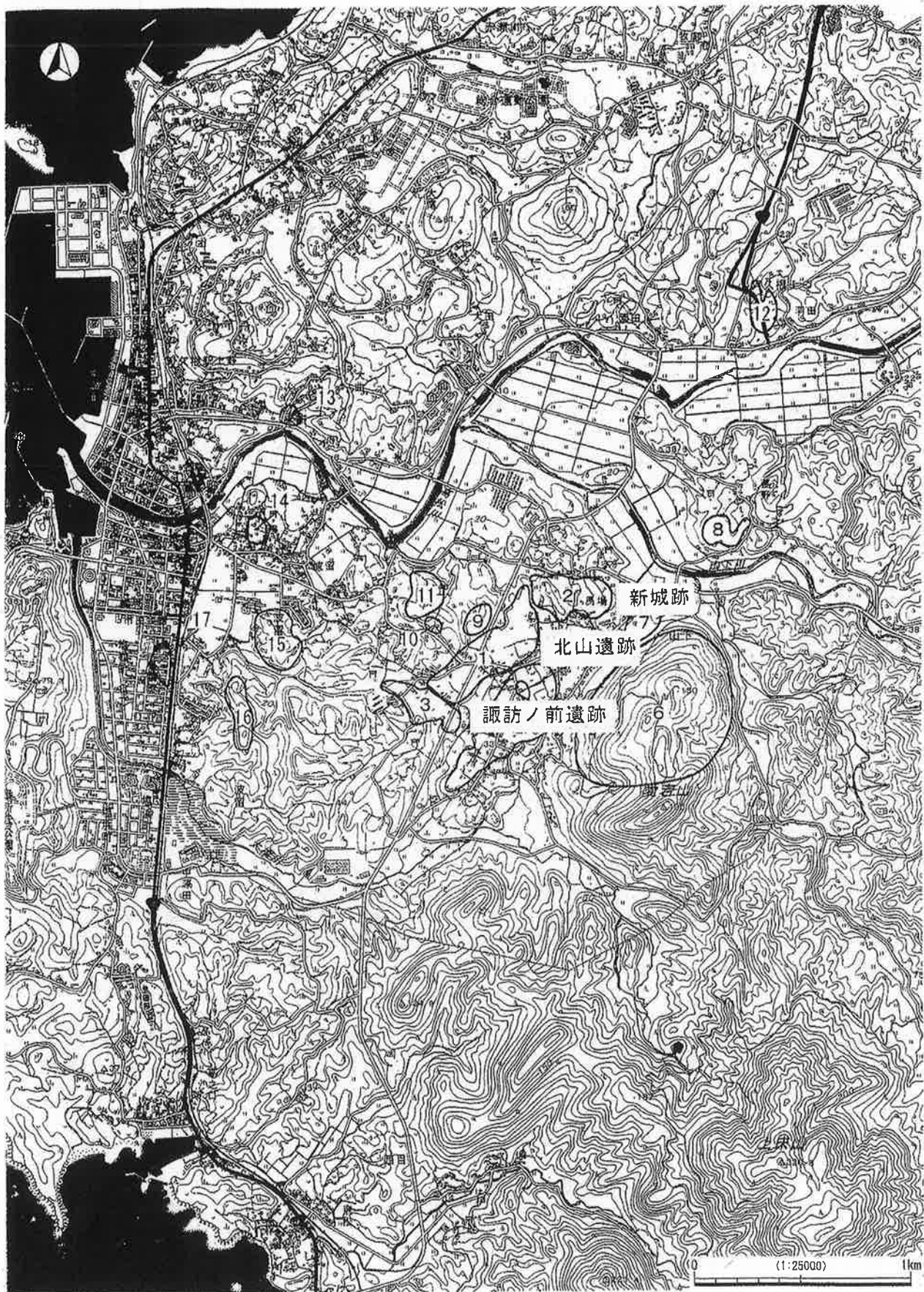
また、遺跡は波留南方神社に隣接しており、莫祢（阿久根）氏が南方神社を勧進・再興した際の一時的な滞在の痕跡である可能性も言及している。この場合は、神社建設に携わる職人集団の滞在を想定しているものと思われる。

5 おわりに

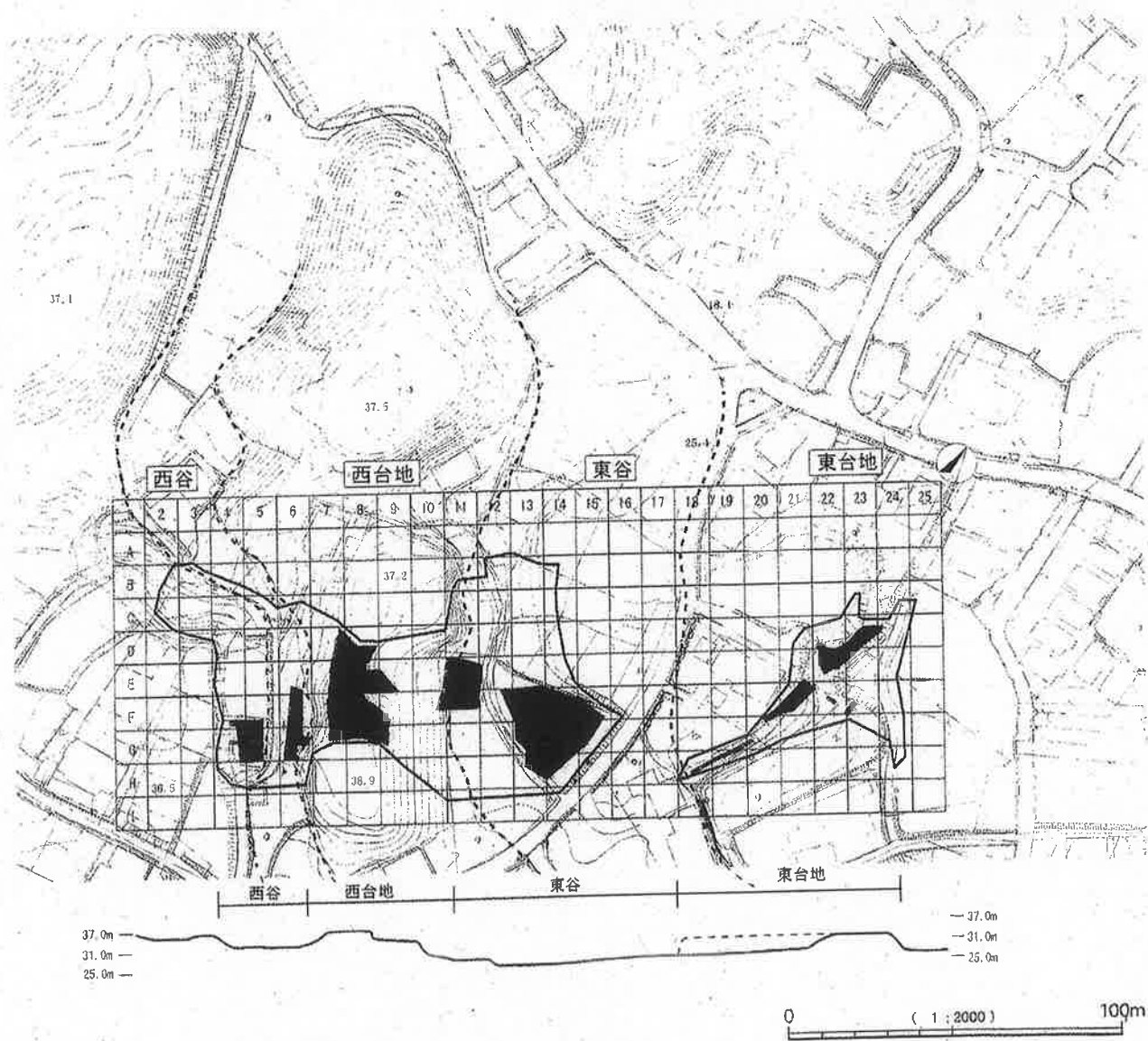
報告書の記載内容を抽出して紹介してきた。各遺構の年代観は、貿易陶磁器を中心に炭素年代測定等を用いて紹介している。今後は、今年度実施分の北山遺跡の成果等も盛り込んで全体を評価していく必要があるだろう。

参考文献

- 鹿児島県教育委員会・公財埋蔵文化財調査センター
2023『北山遺跡1』鹿児島県埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書(51)
2025『新城跡』鹿児島県埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書(59)
2025『諏訪ノ前遺跡』鹿児島県埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書(60)
2025『北山遺跡2』鹿児島県埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書(61)



第1図 各遺跡位置図 (1/25,000)



第2図 新城跡の調査区

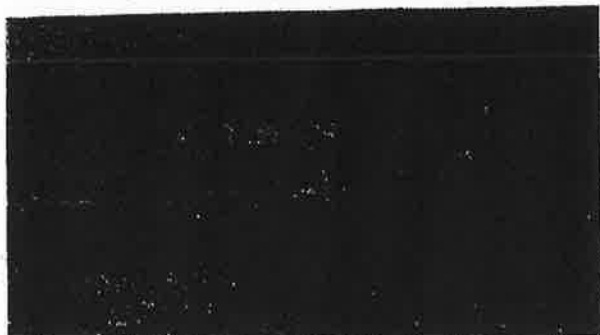
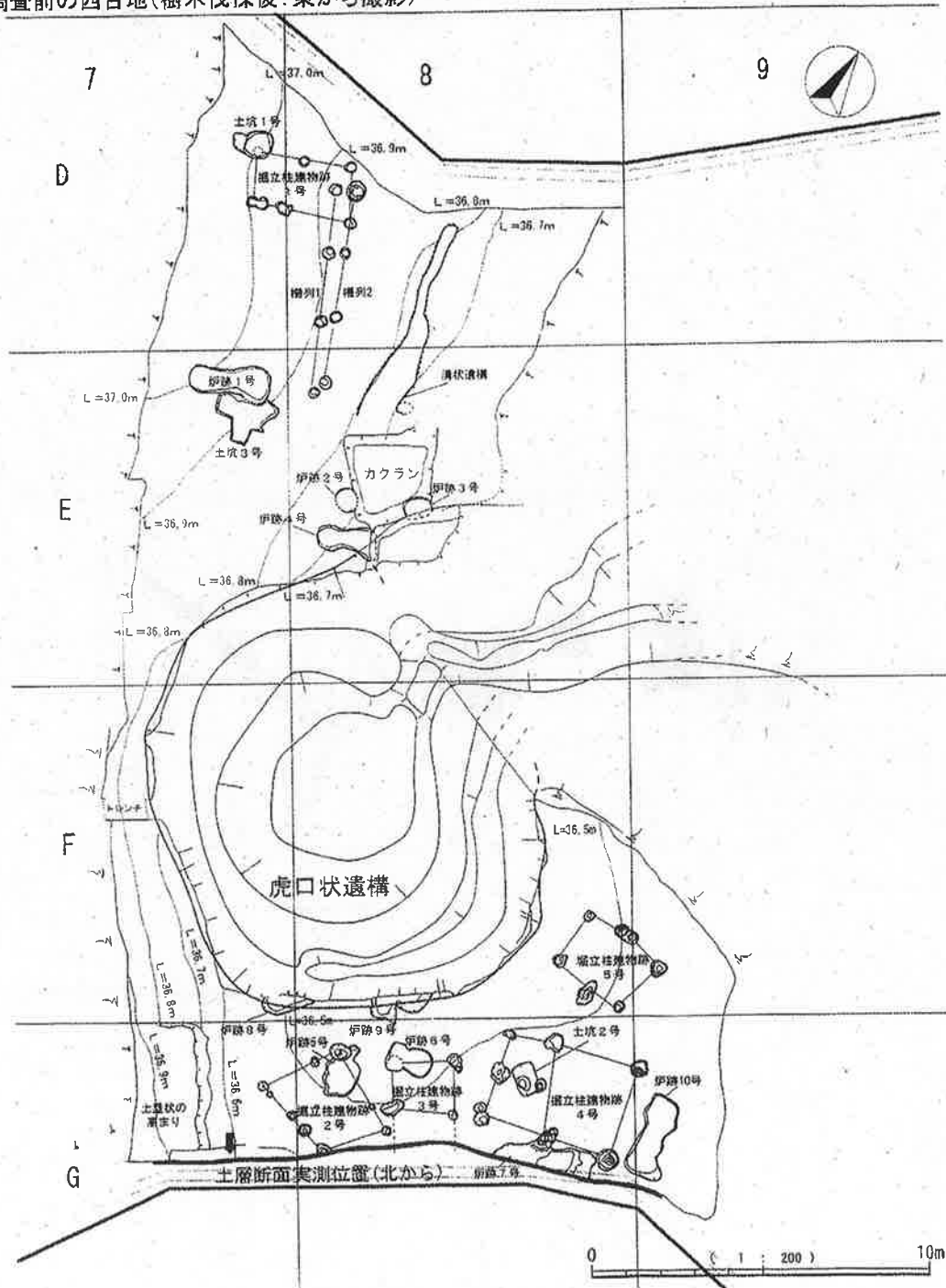


写真 1960年代の西台地(赤丸部分)
畑や果樹園として利用されている。

(国土地理院 航空写真データベースより)

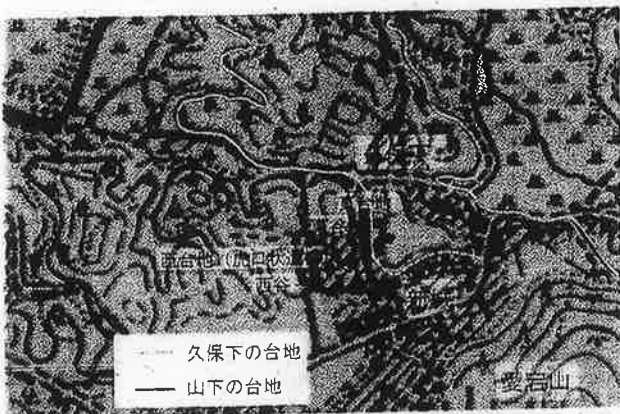
写真 調査前の西台地(樹木伐採後:東から撮影)



第3図 西台地部検出の虎口状遺構



赤色立体図を用いた新城周辺の遺跡と地形(1:25000)



1888年(明治21)年の古地図



1947(昭和22)年の航空写真

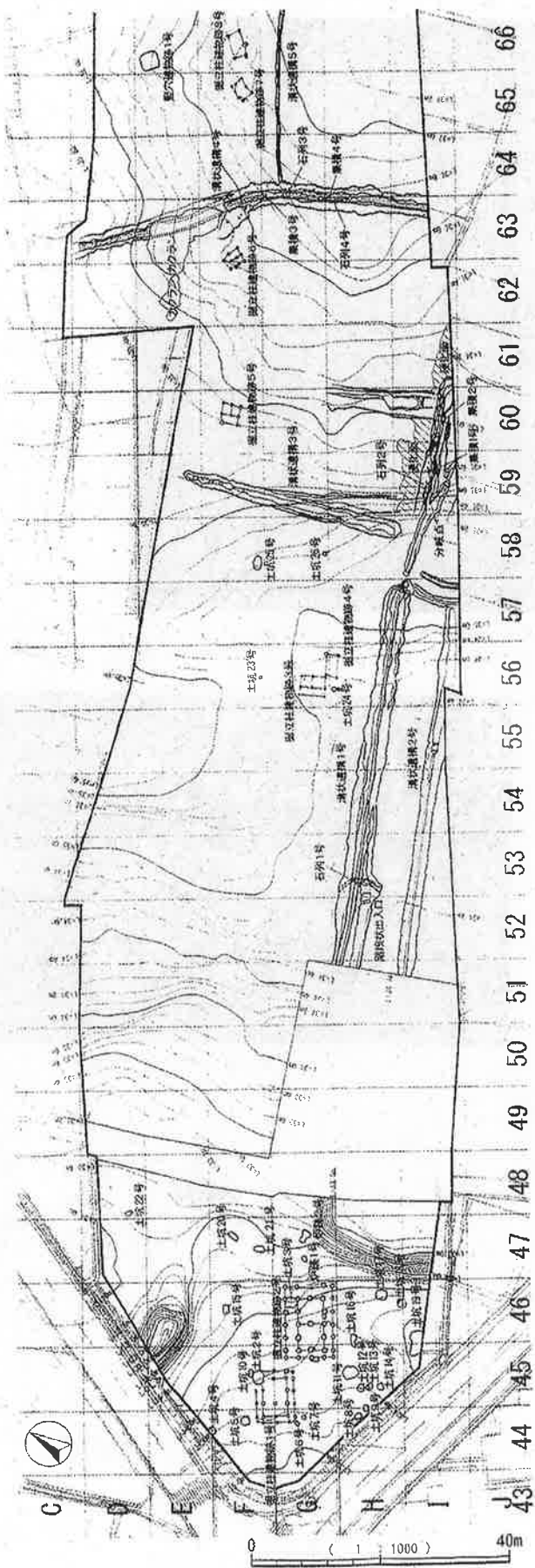


1975(昭和50)年の航空写真

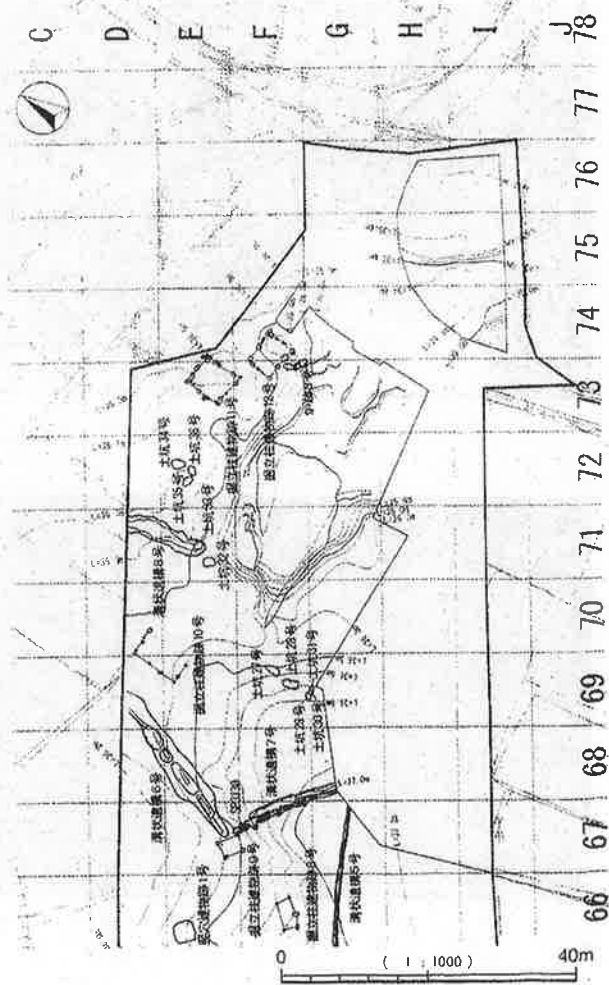


新城を含む中世遺構群(1:30000)

第4図 旧版地図等と遺跡

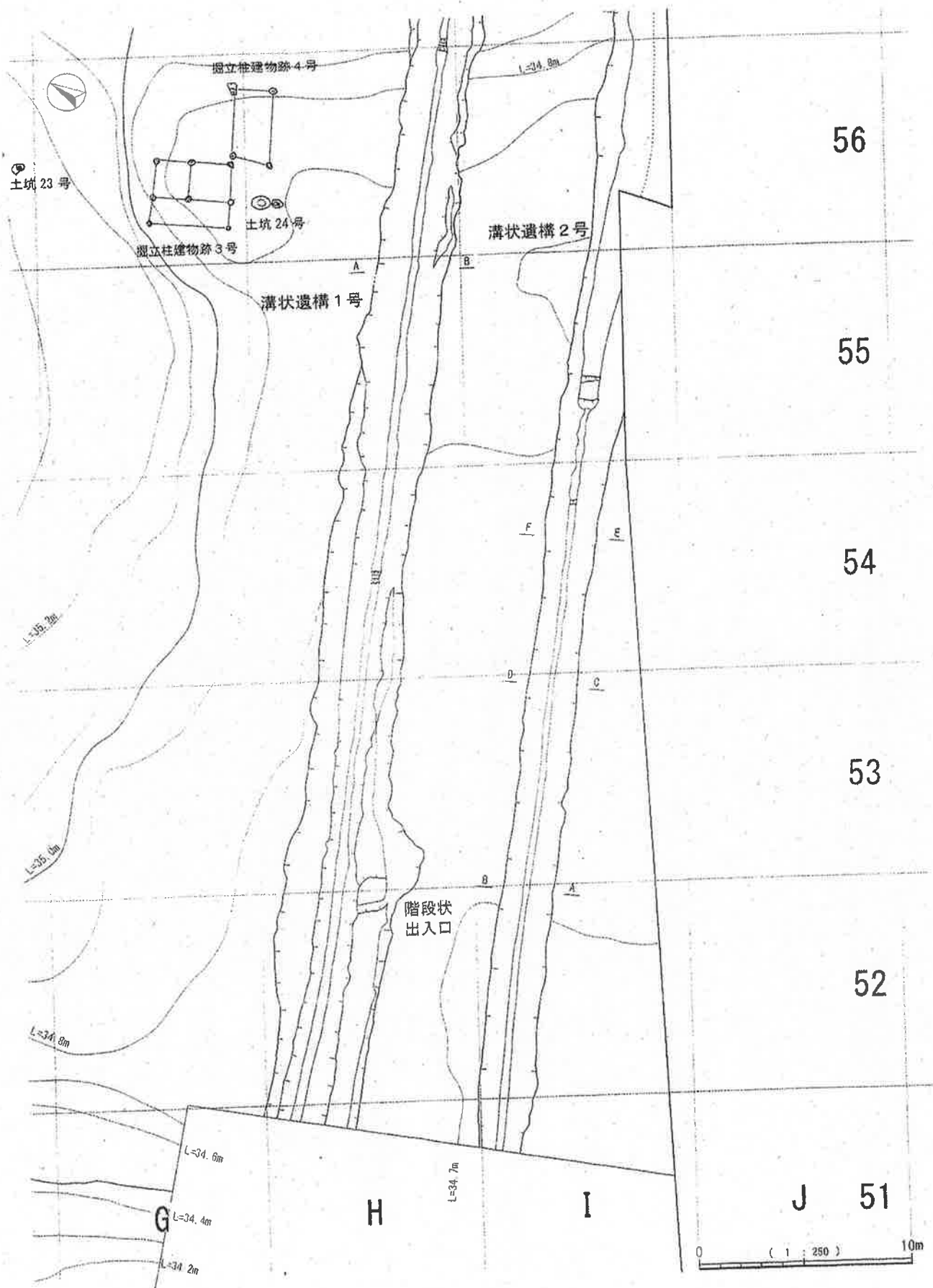


中世の遺構配置図 (43～66区)



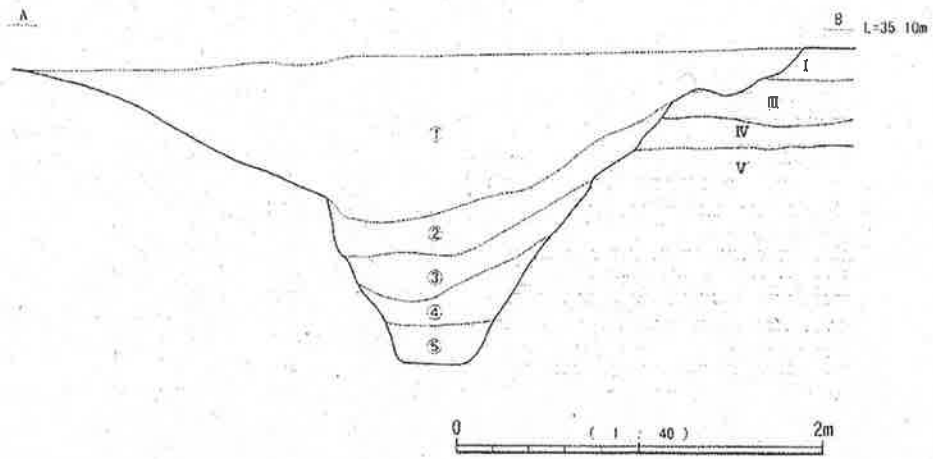
中世の遺構配置図 (66～78区)

第5図 遺構配置図

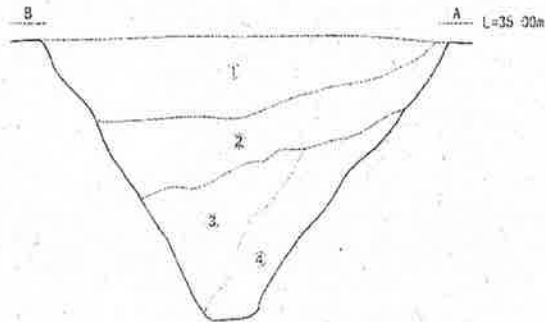


第6圖 溝狀遺構 1・2

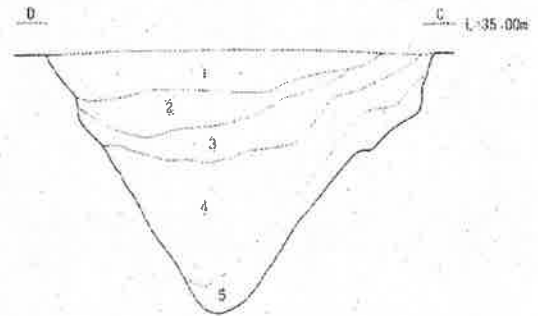
溝状遺構 1 号土層断面



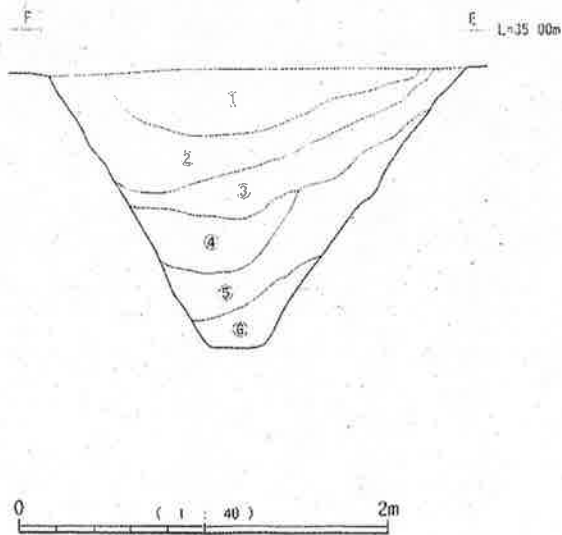
溝状遺構 2 号
土層断面 1



溝状遺構 2 号
土層断面 2

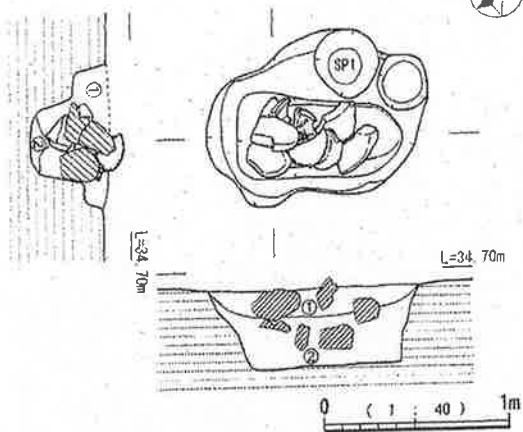


溝状遺構 2 号
土層断面 3



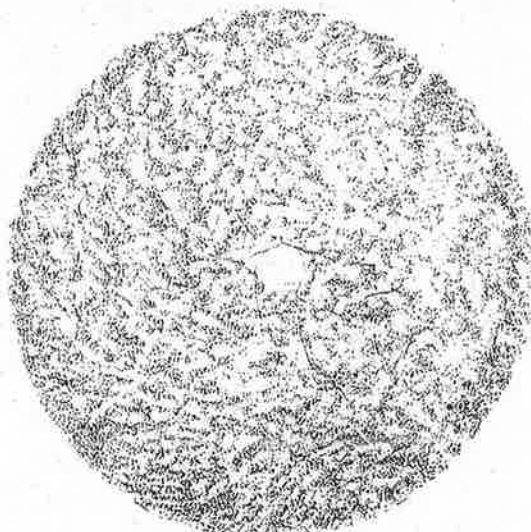
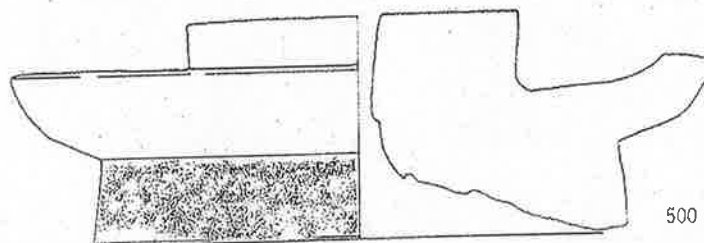
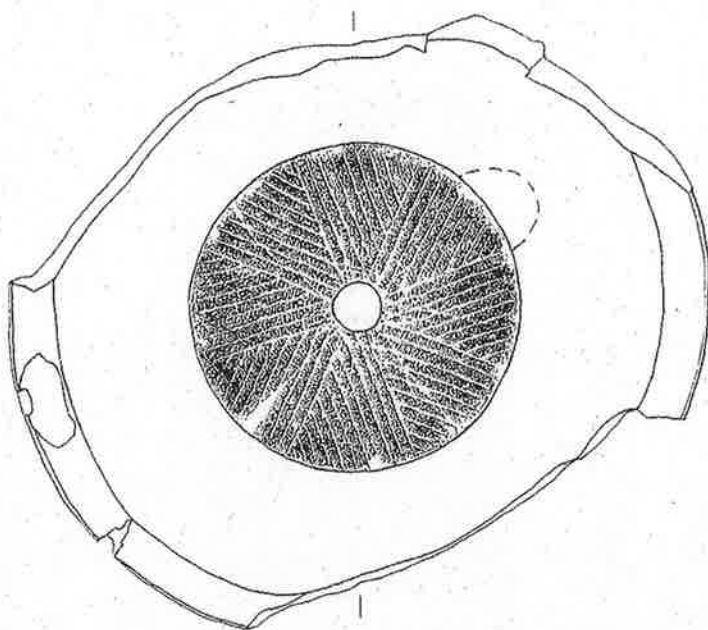
第 7 図 溝状遺構 1・2 の断面図

土坑18号



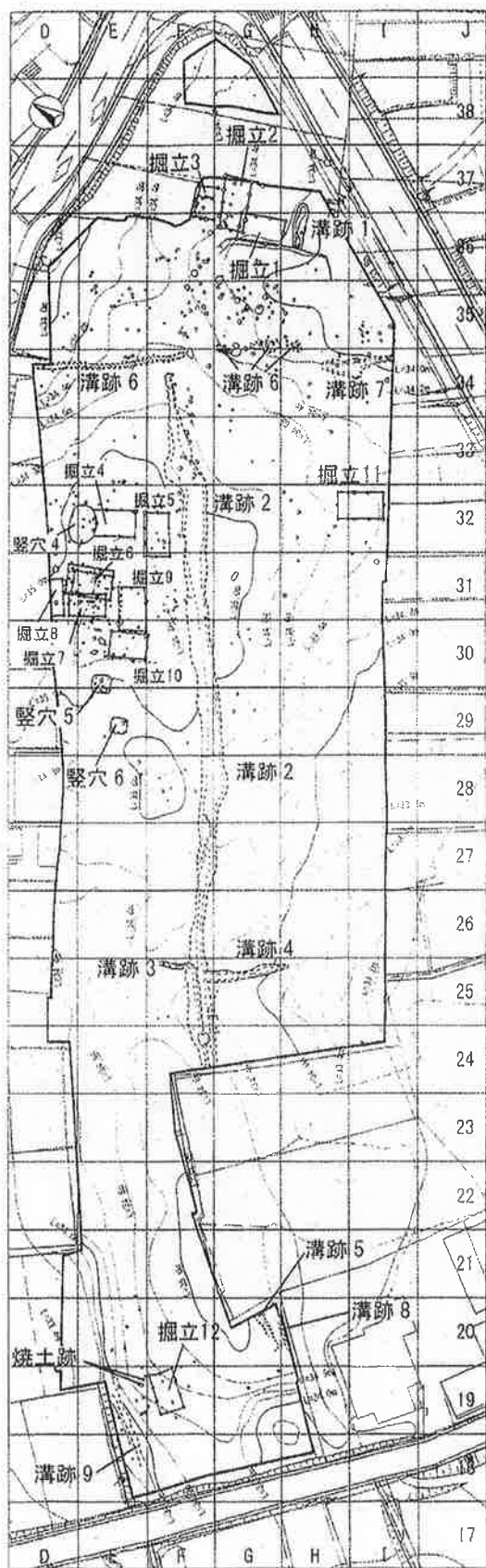
土坑18号埋土注記

- ① 灰黄褐色土(10YR 4/2) しまりやや弱く粘性あり 白色粒子を5%、
ブロック状の黄色バミスを10%含む
② 黒褐色粘質土(10YR 3/2) しまりやや弱く粘性あり
ブロック状の黄色バミスを5%含む

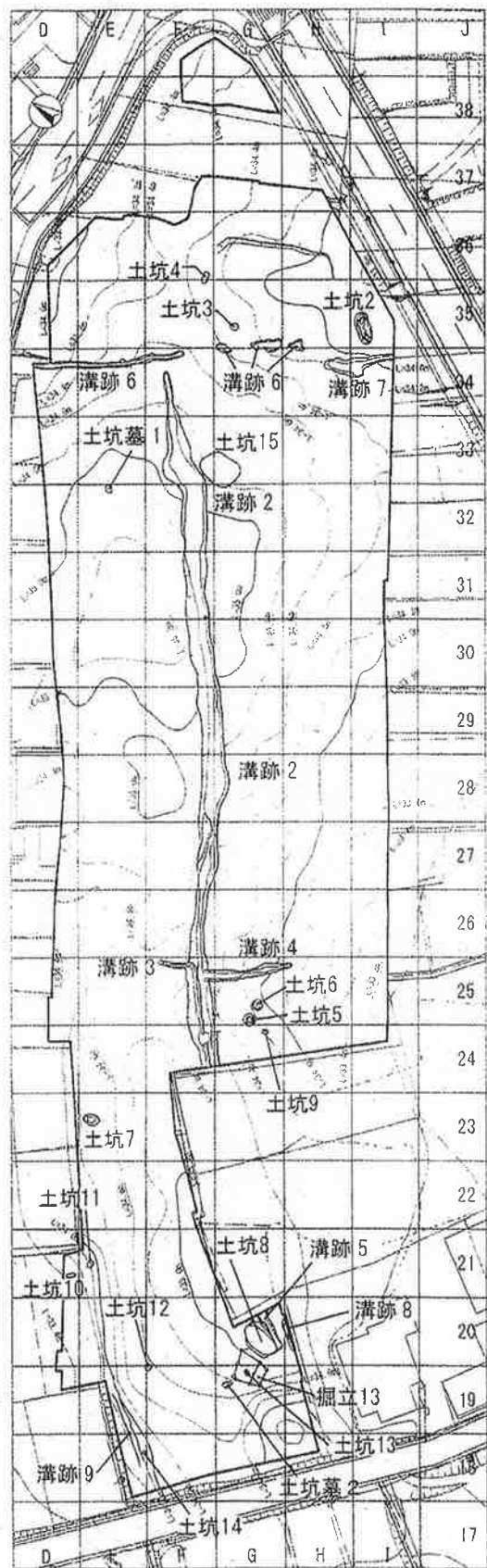


0 (1 : 3) 10cm

第8図 土坑18号と下臼



(13 ~ 14c)

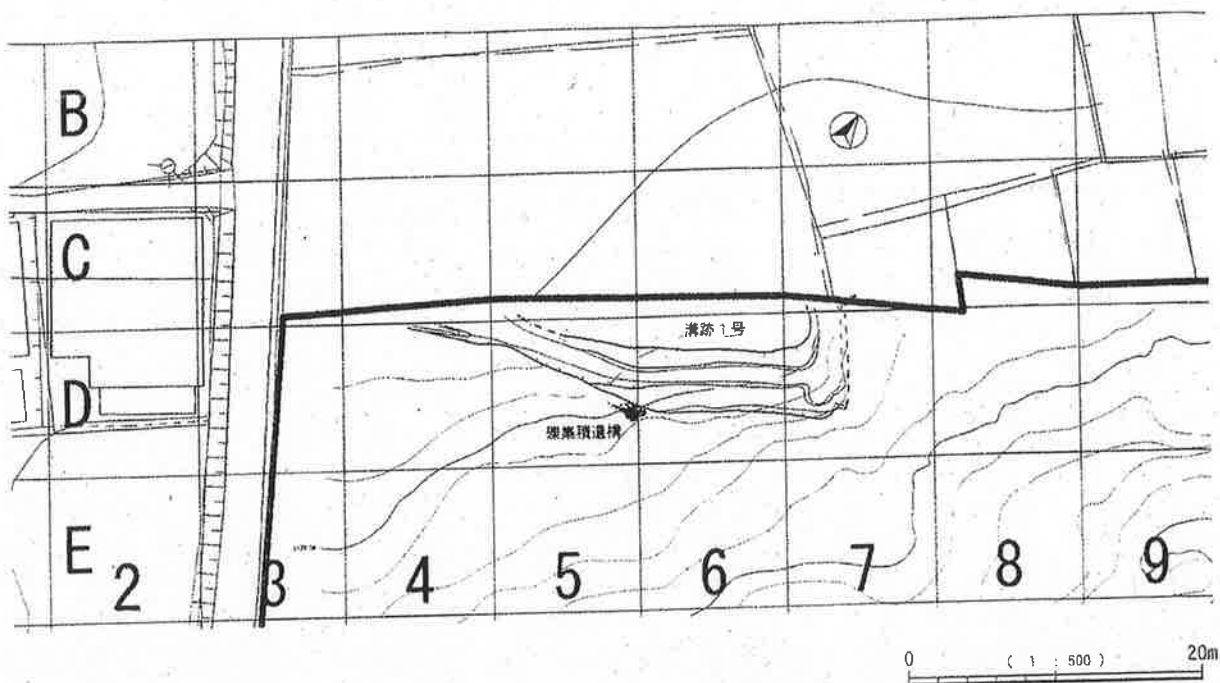


(15c 以降)

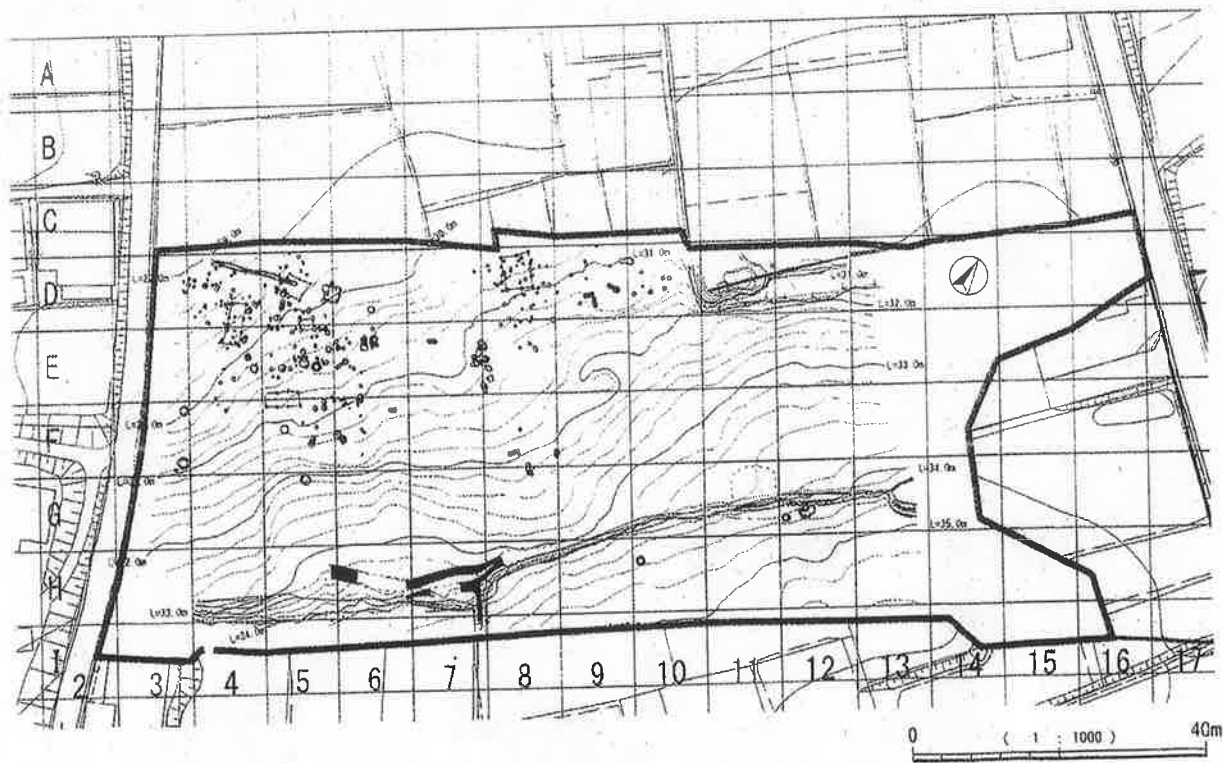
0 (1:1000) 20m

※破線の遺構は存在が推定されるもの

第9図 遺構の変遷案

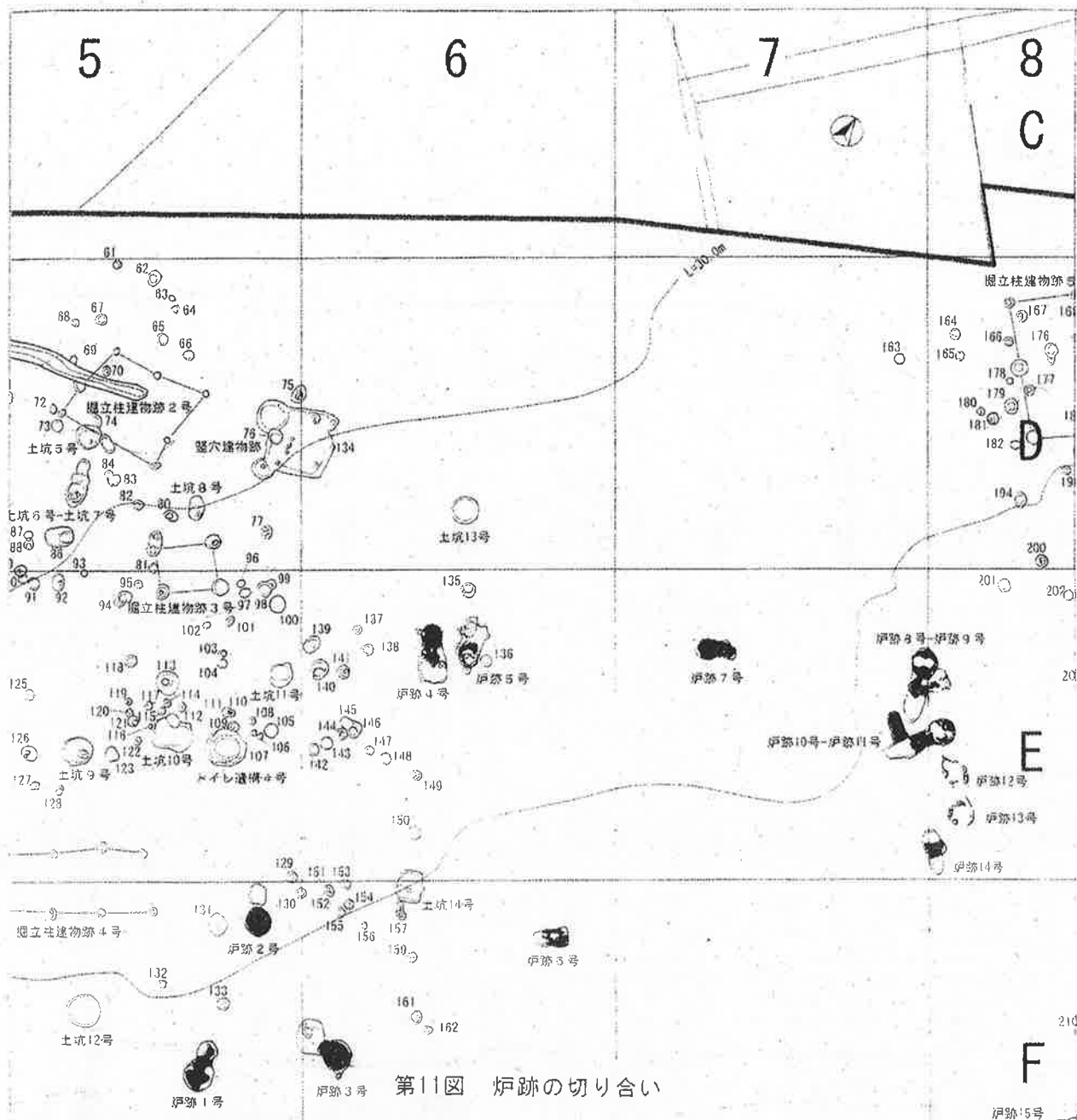


IIa層検出遺構配置図



III層～VII層上面検出遺構配置図

第10図 遺構配置図



第11図 炉跡の切り合い

第43表 諏訪ノ前遺跡年代測定結果一覧

年代		発掘区・遺構																	参考	
		G-5	F-4	D-5	D-3・4	D-5	D-3	E-9	E-7	F・G-9	D-4	E-7	D-9	D-9	D-9	D-9	D-9・10	D-9	波留南方神社	慈仏本堂
		トイレ遺構1号	炉跡3号	炉跡2号	竪穴遺物	竪穴遺物	ピット36号	炉跡4号	炉跡10号	炉跡17号	炉跡16号	炉跡9号	ピット189号	ピット196号	炉跡20号	炉跡19号	炉跡21号	炉跡13号		
1200	40-60																			
	60-80																			
	80-99																			
1300	0-20																			
	20-40																			
	40-60																			
1400	60-80																			
	80-99																			
	0-20																			
1500	20-40																			
	40-60																			
	60-80																			
1600	80-99																			
	0-20																			
	20-40																			
	40-60																			